

# 自然環境と調査 うるおいのある川づくりのために、様々な調査を行っています。

## 太田川

太田川の上流山間部と沿岸部の気候差は大きく、山間部の降水量は沿岸部の約1.5倍あり、太田川の豊富な水量を支えています。山間部の東北地方並のきびしい気候と、沿岸部のおだやかな瀬戸内の風土は、四季の織りなす自然美を見事に調和させ、動植物にも大きな影響を与えています。また、河口部では、大潮の時には最大4mの干満差があり、干潮時に潮干狩りが盛んに行われています。



太田川の水生物調査(柴木川下流地点)

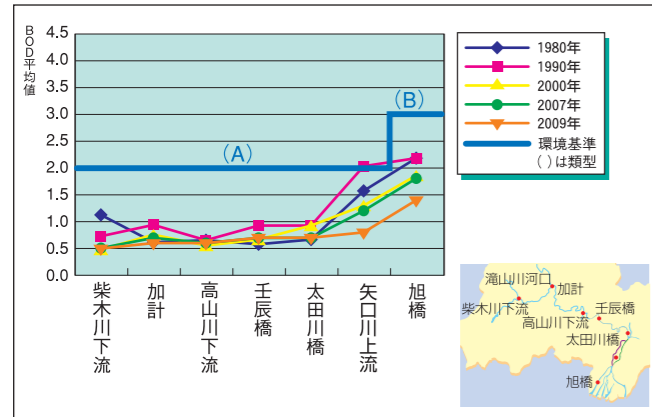
### 河川水辺の国勢調査

河川水辺の国勢調査は、5年を1サイクルとして魚類、底生動物、10年を1サイクルとして鳥類、両生類、爬虫類、哺乳類、陸上昆虫類、植物等の調査を順次実施しています。太田川、小瀬川については、平成2年度より調査を始め、自然環境に配慮した川づくりに役立っています。

### 水質調査

河川の健全な水環境を維持・管理するための一環として、水質調査を実施しています。太田川の水質は、中流域が環境省の日本名水百選に選ばれるなど環境基準を満足し、上下流とも概ね良好な状況です。

#### 太田川BODグラフ



### 水生生物による水質調査

水中や水辺に生息している生物(指標生物)を調査することによって、簡易的にその場所の水質がわかります。河川に親んでもらうことと併せて現状の水環境情報を把握するため、住民と協働で調査を実施しています。



平成21年水生生物調査(太田川)結果図

### 太田川に生息する動植物たち

長沢橋からさらに上流にさかのぼった吉ヶ瀬橋までの区間では、太田川の清流もひとときわ澄み、清冽な水を好むカジカやアマゴの姿が見られます。川岸では、アラカシやタブノキの巨木がみずみずしい緑を陽光に照らし、ユキヤナギの蜜を求めてニホンミツバチやナガサキアゲハが飛び回ります。中流域ならではの動植物たちが、今もひそかに営みを続けています。



カワユキヒラ



ヒヨドリ



ウグイ



ねこやなぎ



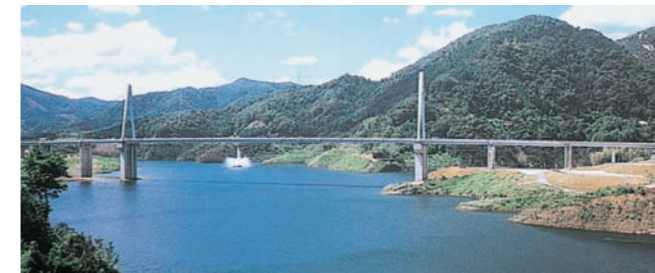
フジ

## 小瀬川

小瀬川は弥栄ダムより上流部は川の勾配が急で、蛇行を繰り返しながら流れる清流が、羅漢峡、弥栄峡(県指定名勝)、蛇喰磐(県指定天然記念物)等の景勝地をつくり出しています。下流部は勾配が比較的緩やかで、直線的な河道が主で、両国橋からは市街地を流れる都市河川へと姿を変えていきます。また、小瀬川流域の9割が山地あるいは森林で、河口から上流4km付近から上流は、山地となっています。



小瀬川の水生物調査(両国橋地点)

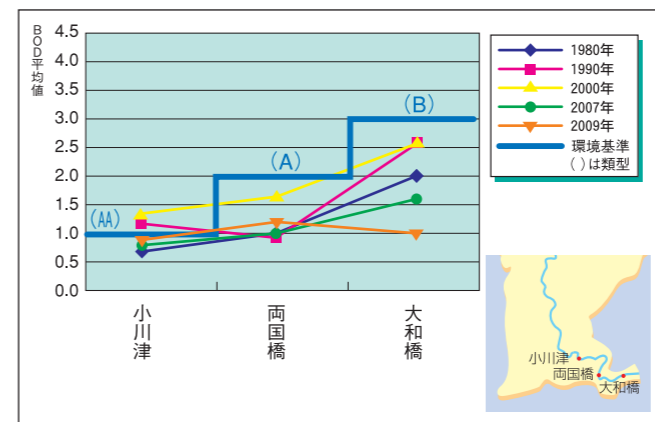


弥栄大橋

### 水質調査

小瀬川の水質は、近年では環境基準を満足しており、上下流とも概ね良好な状況です。

#### 小瀬川BODグラフ



### 水生生物による水質調査

小瀬川では上流から下流にかけて「きれいな水にすむ生物」が見られ、生物から見ても概ね良好な水質といえます。



平成21年水生生物調査(小瀬川)結果図

### 小瀬川に生息する動植物たち

小瀬川は緑と動植物に恵まれ、豊かな自然に囲まれています。小瀬川流域の90%を占める山地には、豊かな森林が広がり川岸にも様々な植物がはえています。川の中にはカワムツ、アユ、ギギ等が泳ぎ回り、川底には小さな虫たちが住んでいます。また水辺には多くの昆虫がいて、川岸にはカワセミ等たくさんの鳥達の姿も見えます。このように小瀬川は、多くの生き物たちの生命の源になっているのです。



アユ



ハッチョウトンボ(オス 成虫)



モリアオガエル



ギギ



カワセミ

BOD(生物化学的酸素要求量)とは水質汚濁を示す代表的な指標です。水に溶けている酸素を水中の生物が増殖や呼吸作用によって消費しますが、その量が多ければ多いほどその場所の水質が悪いことがわかります。